

が現在の厳しい経済情勢の中宜しくお願いいたします。あまりお金の話ばかりしますと皆様にヒンシュクをかう恐れもありますので、この辺で私からの説明を終わらせて頂きます。この後、田村さんの方から宜しくお願いします。

田村：今年また復活しました学友会の世話をせよという事で委員長を預かりました田村で御座います。何分初めてでございますけれど、今2640地区を含めまして、国内19 外国に今現在韓国と台湾の学友会がございまして21の学友会が存在する訳でございます。先程も松下委員長からの説明にありました様に各カウンセラーによりまして学友会の名簿や連絡が非常に充実させて頂いておるのも皆様のお陰だと思っております。また今年3月に卒業される方も沢山ございますので、その辺をカウンセラーさんで出来るだけ密な連絡を取って頂いて学友会との連絡役に是非お力添えをお願い致します。特に米山を離れまして2～3年経つと音信不通になったり、そういう横の連絡が取れなくてメールだけで済ますところもございますので、今現在 地区でも横の連絡は着くんですけど中には着かない方が3～4名います。そういう事で出来るだけ我々の横の連絡で・・・今度12月7日にOBの方々を一同に集めまして親睦会を大阪でもつ予定をしております。また米山のハイライトという資料が各クラブさんに届いていると思いますが、この中にも今年米山の学友でございました大阪芸大の羽曳野RCでお世話頂いた方ですけども、ストックホルムの国際映画祭に自分が製作した映画が正式に推薦された。と言うように非常に一生懸命にやっている方もございますので、是非 皆様方の横の連絡等を含めて学友会への協力をして頂きたいと同時に、皆さんの方で卒業した学友に対して要望事項がございましたら、是非 忌憚のない意見をお聞きしたいと思っております。以上です、宜しくお願い致します。

松下：それでは私の方から・・・今まではカウンセラーの研修制度というものがあまして、カウンセラーとしてのいろいろな事は聞かせてもらっているのですがクラブ委員長さんやカウンセラーになるロータリアンの方々から・・・本年度



お世話になっております、橋本・高野山・粉河RCさんから奨学生についてのご感想をお聞かせ願えたらと思います。まず初めに粉河クラブさん。鄧 洪麗さんを去年から続いて2年お世話なさってますので、この方についてのご感想やいろんな意見をお願いします。

粉河RC：鄧 洪麗さんですけれども、もう大人の女性ですので もう既に形成されていると申しますか、大変 日本語もお上手ですし頭の良い人という印象を受けております。

松下：クラブ全体として留学生を預かって良かったと言う感想が多いのですか？

粉河RC：そういう事は実際メンバー全員に聞いていないので、はっきり言って判りません。

松下：次に橋本クラブさんに戴 桂明さん、中国の方で和歌山大学生が居られます。

橋本RC：彼は気さくな感じの方で日本に来てもう7～8年経っている様ですので日本語も普通に話しています。特にクラブ位からの苦情とかも聞いておりません
一般論として過去お世話した方が全然連絡がないと言うのは、勿論ある訳なんですけど・・・それともう一つ、クラブの中では・・・お金の話なんですけど話題が少しづれるかもしれませんが、バブルが弾けたのに いつまで同じ金額を上納させるのかと言う話は常々あります。と言う事であります。

松下：と言う事で、お金の話になってまいりますが1000名という対応数・・・いろいろな事を米山奨学会でもいよいよ検討していかないと・・・額を減らすか、人数を減らすかという様な段階に入っております。常識的に考えておりますのは、年間米山奨学金として20億円という金が要ります。奨学金として使うのが17億円ぐらいですが、諸々の経費が要りますので・・・20億円という金が



現在では16億円の寄付しかありません。これに付きましては今までに蓄えた特別積立基金などを取り崩して補填しており、いよいよ改正せねばならない時期に来たなと感じております。米山奨学会でも議論の対象になっております。厳しい世の中で非常に難しい事だと思います。

高野山RC：中国から来られた女性の方で、確か40才くらいだと思うのですが、先程お話されました事と同じ様に気さくな方で、かなり勉強もされているみたいだし日本語も堪能ですし、クラブの方にも月1回は必ず出席するように要請もしております。その折りに卓話並びに現状報告等をしてもらっております。ただ内のクラブの方では極力ゲスト席に座ってもらうんじゃなく、みんなと席を共にして食事中に会話のもてる様に工夫をしております。今年も高野山は米山月間が終わった時点で、一人当たり2万円の目標額を超えさせて頂いたと思うのですが・・・高野山大学がありますので結構奨学生を預かる事が多いのですが、今までに来られた方にも永くお付き合いをされている方もございますし、只やはり橋本RCの方も仰ったように、徐々に厳しくなっているのではないかと感じております。以上です。

松下：高野山大学は各年くらいに応募資格のある方が来られると思うのですが・・・私共と致しましては地区内18大学ありまして、その全大学から推薦枠を設けまして応募いただく様な事をとっております。地区によりまして2～3の大学に偏って行っている所もありますが、2640地区では全大学でお世話になるという方向をとっております。当初は韓国・台湾が多かったのですが、現在日本に於きまして香港が中国返還となり、日本が留学生と取るようになりましてから中国が圧倒的に多くなっております。60～70%の留学生が来ております。米山奨学会としましては1国50%を超えないような対応をして下さいと申し合わせではなっていますが、現在でも超えております。そういう点、特に世話クラブ・カウンセラーをお願いするにあたり、大阪地区に偏って奨学生が多いという声もございます。昨年は和歌山も多かったのですが、今年は和歌山



大学も少ないという傾向になっております。次年度26名もの採用をしますと生きよい盛んなクラブさんをお願いせねばならないのかなと思います。米山奨学会としましては、クラブになるべく負担の掛けない様にということで考えております。宜しくお願い申し上げます。それから他のクラブさんで本年度お預かりしておりますが、米山奨学会やその他の事についてご質問等ありましたらお願いします。

参加者：米山奨学生のクラブ推薦という制度はないのですか？

松下：以前、3年前までは2640地区もクラブ推薦制度でございました。しかし全国13地区、大学の多い地区でございまして大学推薦制度というものを取り入れました。これに付きまして検討した結果、非常に良かったという事で全地区で大学推薦制度を取り入れております。大学推薦制度を取り入れて何故良かったのかと申しますと、今まで2640地区でも応募資格のある方が200名程あります。そうしますと応募して頂いて私共の方で全て調べるというのは非常に困難でございます。それと優秀性という事になってまいりますと、選考試験に於きましても専門知識が非常に難しくなっております。大学で推薦して頂きますと本当に優秀な方を送って頂けるという事でございます。大学推薦制度になってから人数が50名程度に絞れて選考試験もしやすくなります。しかもいろんな労力、書類選考等いろんな事をしてまいります、それが簡素になった。全国的にまた米山奨学会としまして非常に助かったという結果が出ておりますのでクラブ推薦制度というのは、到底考えられない事であったと思っております。

参加者：クラブ推薦と大学推薦を併用できるのではないですか？優秀性というのは大学院の入るだけの成績があれば優秀と言えるのではないですか？結局大学なり大学院に入って、その制度の知らない優秀な生徒が、教授に馴染みがなければ推薦してもらえないという場合もあるのではないですか。



松下：国際交流科というのは、どの大学にもありますが、そこで選考して頂いているというのが実状でございます。

参加者：そういう矛盾があるのではないですか？

参加者：クラブ推薦と大学推薦の制度事態を比較してみると、大学推薦の方にもデメリットがある訳ですが、クラブ推薦の方がデメリットが大きいと云う訳ですか？

松下：そうですね。それで13地区で3年間試行した結果をもって、全地区が移行しました。米山奨学会の中にも色々な委員会がありまして、今日お聞かせ願えた事はカウンセラーや理事にはお伝えしておきます。

参加者：細かい事なのですが、大学は沢山あります。確かにレベルの差があると思いますが、奨学金をどの様にしているのか？授業料等も違うと思うのですが。

松下：米山奨学会としましては修士課程と博士課程の方には月額15万円、学部の方は12万円の支給をしております。

参加者：大学院は15万円、大学は12万円。これくらいの奨学金でしたら授業料は免除になっているのですか？

松下：国公立大学の場合は一部授業料が減っていると思います。これにつきましては大阪地区の奨学生交流会等に出席しました時に「ロータリーアンの皆さんから寄付して頂いて、支援してもらっている金額から授業料を取るとするのは非常に心苦しい」と云う意見も出すのですが、大学側と致しましては否定も致しませんし、大学で決めた規定通り所得として見なして授業料を取っていくという



具合でございます。

参加者：所得になるでしょう。ですから一概に免除という訳にはいかないでしょう。

この方は奨学金制度に値する人物であると大学が決める時の所得にも依りますよね。

松下：アルバイトとか色々な収入全部調べております。日本にも12万人を超える留学生を受け入れる様になりまして、優秀性という事で、まず出稼ぎという様な感じの留学生の問題。その件に付きまして米山奨学生に関しましてはそんな事のない様にいろんな気を使っているのが現状でございます。

堤：個人々並びに学校によって授業料の免除の度合いが違うようです。そして今ご質問で言われている様に、仮に19人取りますという時に上から成績の良い順ではございません。今までの貢献度と言いますか、色々の事を加味して最終決定をしております。出来るだけ学校が偏らないよう、国も偏らないように充分チェックしております。

参加者：その段階でクラブ推薦のある方も採用できるのではないですか？

堤：それは2640地区だけでなく、他の地区も同じように行ってますので、今後の課題としては聞いておきますが、その時点でクラブ推薦を加味しろというのは、今現在では不可能だと思います。今後の問題として考えるという事でご了承願います。

参加者：メリット・デメリットというのは良く分かりますが、クラブ一人当たり2万円の寄付要請しておきながら、そのクラブ関係の留学生が来て大学に入っても推薦が無理なのですか？

松下：今の米山奨学金制度では出来ません。



前田：でも大学に推薦願いの陳情は出来ます。

参加者：仰る事は良く分かるんですが、先程から出ている奨学金の寄付ですけれども一生懸命出しているにも係わらず、クラブの意向が反映されている様で反映されていない。だから皆さんからの疑問や不満が出てきているのではないかと思います。

松下：ご寄付である以上、強制できるものでもありませんし・・・

参加者：米山の出来た意義を考えてもらえば、クラブで勿論推薦出来るのでは・・・

堤：まず学校にお願いして、クラブからこういう方を学校から推薦して頂きたいと地区にご報告下さい。そこは充分に考慮いたします。

参加者：解りました。どういう事が出来るか考えてみます。

参加者：それは、やはり考慮すべきだと思います。やはり各クラブからお金が出てくるのですから、全部学校で決めて行くと全く我々無関心になってくるとと思います。だから何らかの形で繋がりがあって良いのではないかと。やはり良い方があれば各クラブで推薦をして、ある程度考慮して頂きたい。最終選考については、勿論学校なり各委員の方に決めてもらった方がいいのですが。各クラブからの意向もある程度汲むような制度に変えていった方が、もっと皆さんが理解してくれて協力して頂けるのではないかと思います。一方的にお金を納めるだけで、全くこちらには何も無い。それが今の不満の理由になっていると思います。その点も考えて頂きたい。

前田：先程、委員長から話がありました、学業が優秀である事・日本語が堪能である事・ボランティア精神があるかどうか。いわゆる、大勢の人と



手を取り合って生きて行こうという姿勢がないと、自分だけ良ければいいでは
・ ・ ・ そういう事が選考の基準になってくるのではないかと思います。

参加者：そういう事を解った上でご質問しているのです。何も悪い生徒をクラブが推薦致しません。

松下：なるべく米山奨学会にそういう意見が伝わるようにしたいと思います。

堤：米山奨学生の場合は応募者が多数、東南アジア方面から沢山来ております。しかし財団の方の交換学生、その他に関しましては全然欧米からは来なくなっております。と言うのは、日本の大学を出ても国へ帰って仕事に結びつかないという事が現実起こってきております。日本へ行ってもダメだ。同じ留学してヨーロッパに行った者は帰ってくると皆が仕事に結びついている。という事で非常にこの大学教育というものが問題になっておりますが、それが非常に顕著に表れております。財団の方もそうですし文部省もどんどん応募者が減ってきております。これは我々の力ではどうする事もできないので、一応皆さんの耳に入れておきます。12万円という金額は中国ではお父さんの年収です 大体、上海からその近辺では月収が日本円で1万円程です。

松下：米山奨学生を預かって頂いたら、いろんな事を聞いてもらったら結構なんです 私も永く米山の地区をさせて頂いておりますが、今年初めてカウンセラーをしています。聞きますのに、日本に来て5年が過ぎ、物も食べずに勉強した。しかし米山奨学金を頂いて、研究にも没頭できる。助かっている・ ・ ・ という切実な話も聞かして頂いております。

参加者：最初の話に戻るんですが、奨学生の資格の方がもう既に日本に来られていて大学に入られている方が対象ですか？

松下：はい、そうです。



参加者：という事は、結局 今仰っていた様に中国の方だったら、それだけのお金を自分で用意して日本に来られている。言ってみれば普通の中国の方よりも裕福な方ではないのですか？

松下：そうです。裕福な方が多いですね。

参加者：その人に対して、それに上乗せをして奨学金を与えるのですね。

松下：私が今、預かっている方の場合ですが、親戚やいろんな方から貯金を叩いてもらって日本に来ました。しかし、それも使い果たして途方に暮れていたとこであつた。という様な感じの事も聞いております。優秀性になんか変わってきたという事は、世界に通用する人材の育成という事を重きに置いているんだという事です。

堤：中国にロータリークラブがあれば又別なんですけど、私達もそれは思っているんですけど・・・お父さんの年収を月々に渡している。それよりも、もっと日本に来られない方が居るんじゃないか・・・

参加者：そうですね。私の考えからすれば折角の奨学金であるのであれば、そういった方をどの様な形になるか解りませんが、そういう方を選考して日本に呼んであげるといふ様な形も良いのではないかと。

堤：それは、こっちから向こうに選考に行かないといけませんね。

参加者：この会には関係ないのですが、それに関連して私共のクラブで「足ながおじさん制度」というものをやっております。それは今仰ったように向こうへ行つて我々が選考して高校生を迎える事をやっておるのですが・・・その時に通訳



として活躍してくれた方が、今度和歌山大学に入学したのでクラブ推薦が出来ませんかという事なんです。

松下：良く解りました。

時間がまいりました。まだまだ話は尽きないと思いますが今後とも米山奨学会に対しまして宜しく御協力を御願い致します。どうも有難う御座いました。



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2640

GROUP 4

**INTERCITY MEETING
IN
KOKAWA**